

**青葉区地域子育て支援拠点事業**  
**令和3年度重点目標評価結果・令和4年度重点目標**

事業実施期間	令和3年4月1日～令和4年3月31日(1年度目/5か年度)
事業の実施者	特定非営利活動法人ワーカーズ・コレクティブパレット 青葉区こども家庭支援課
事業目的	<p>市民が安心して子どもを生み育て、子育てに喜びを感じることができる社会環境を形成し、子育てを地域全体で支援する地域力の創出に寄与することを目的とします。</p> <p>【事業・施設運営の基本理念】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 青葉区における、地域による子育て支援の拠点施設としての運営</li> <li>2 子どもの視点に立ち、すべての就学前児童及びその養育者、並びに子育てに関する支援活動を行う者に開かれた運営</li> <li>3 子どもと家庭を支援する各種の行政等機関・地域等との連携を図る運営</li> <li>4 利用者の意見、子育てをめぐる社会情勢、市民ニーズの変化に柔軟に対応できる運営</li> <li>5 子ども及びその養育者の育ちを支援するとともに、養育者自身が事業の担い手として関わることができる視点に立った運営</li> <li>6 地域の人と人とのつながりを広げ、地域ぐるみの子育て支援を目指す運営</li> </ol>
事業の内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 乳幼児の遊びと育ちの場及びその養育者の交流の場の提供(親子の居場所事業)</li> <li>2 子育てに関する相談及び関係機関との連携に関すること(子育て相談事業)</li> <li>3 子育てに関する情報の収集及び提供に関すること(情報収集・提供事業)</li> <li>4 子育てに関する支援活動を行う者同士の連携に関すること(支援者ネットワーク事業)</li> <li>5 子育てに関する支援活動を行う者の育成、支援に関すること(人材育成、活動支援事業)</li> <li>6 地域の住民同士で子どもを預け、預かる支え合いの促進に関すること(横浜子育てサポートシステム区支部事務局運営事業)</li> <li>7 子育て家庭のニーズに応じた施設・事業等の利用の支援に関すること(利用者支援事業)</li> </ol>
事業の評価実施方法及び評価結果の公表方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 協働契約書中の役割分担表の項目に沿って設定した、今年度の達成目標のうち、当該年度に特に重点的に取り組む達成目標である「重点目標」について、以下の通り、相互振り返りを踏まえた取組成果と課題を公表します。</li> <li>2 今年度の取組状況や成果、課題を踏まえ、次年度の重点目標を公表します。</li> </ol>

### 令和3年度重点目標の評価

令和3年度重点目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域子育て支援拠点のもつ多様な機能や役割を区民や関係機関に知らせ、活用につなげていきます。</li> <li>2. 他団体・施設との連携やネットワーク構築を通じて出産前からの継続的な子育て支援に取り組みます。</li> </ol>
取組内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 周知・発信 ・Instagramでの情報発信、情報フォームでの地域情報集約等について、定例会の場で両方で現状や方針を検討した。地区によって差はあるが利用者、支援者に浸透していくよう取り組んだ。 ・訪問、健診等の機会に継続的に子育て世帯へ周知するとともに、区広報も活用しながら発信することができた。</li> <li>2. 他団体・施設との連携やネットワーク構築を通じての出産前からの継続的な子育て支援 ・両者での意見交換を通じて、体験講座の拡充を行った。</li> </ol>
取組の成果	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 周知・発信 ・地区によって差はあるが利用者、支援者に浸透しており、ラファールのInstagram等を通じて地域の子育て情報の発信を行うことで、実際の利用につながった。 ・区内公共施設や各委嘱委員、近隣企業等、多方面に拠点の機能を伝える機会を増やしたことで、新たな支援者の創出につながった。</li> <li>2. 他団体・施設との連携やネットワーク構築を通じての出産前からの継続的な子育て支援 ・区実施事業の応募者等へ周知することで効果的に実際の参加へつなげることができた。 ・区と拠点で妊娠期からの支援の拡充に向けて取り組む方向性を確定したことで、新規事業の開始につながった。 ・子育て世帯とつながりのある区内の他団体との連携を深めることで、新たなネットワークづくりに取り組んだことにより、子育て世帯の継続的な支援につながった。</li> </ol>
取組の課題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 周知・発信 ・支援者に対してラファールの情報集約機能について継続的に周知していく必要がある。 ・転入者への周知について、導入予定の子育て情報アプリ等も活用しながら効果的に発信していく必要がある。 ・事業実施日から逆算して適切なタイミングでの周知を継続し、参加につなげていく必要がある。 ・認知のみにとどまらず、利用対象者、広く区民が、拠点に足を運んだり、具体のプログラムにも関与するよう、引き続きはたらきかけていく必要がある。</li> <li>2. 他団体・施設との連携やネットワーク構築を通じての出産前からの継続的な子育て支援 ・妊娠期にできたつながりを出産後に効果的に活用していく手法を検討する必要がある。 ・職業体験、高校への出張・連携づくりなど、次世代へのアプローチについて検討する必要がある。</li> </ol>

## 次年度重点目標

令和4年度 重点目標	1. 地域子育て支援拠点のもつ多様な機能や役割を区民や関係機関に知らせ、活用につなげていく。 2. 他団体・施設との連携やネットワーク構築を通じて出産前からの継続的な子育て支援に取り組む。 3. 子育て世帯や妊婦が身近な地域の子育て支援につながるように、地区別に支援者をつなぎ、連携した取り組みを行っていく。
取組内容	1. 周知・発信 ・各SNSやスマートフォンアプリを活用して効果的に子育て情報の発信を図る。 ・支援者向けに拠点の情報収集機能について継続的に周知を図る。 ・事業実施日から逆算して適切なタイミングでの周知を継続し、参加につなげていく。 2. 他団体・施設との連携やネットワーク構築を通じての出産前からの継続的な子育て支援 ・妊娠期のみならず、将来親となる次世代に向けての企画や広報を行い、様々な子育て支援が地域に存在し、身近なものであることを周知していく。 ・妊娠期にできたつながりを出産後に効果的に活用していく手法を検討する。 3. ネットワーク構築 ・両者が考える各地域の子育て資源の現状や今後のニーズについて共有するとともに、事業展開前の両者での検討時間を十分に確保していく。 ・地区別ネットワーク連絡会などで、各地区の支援者が連携して地区の課題やその解決策を検討する。 ・青葉区内の子育て支援に携わる人が交流する機会を作り、連携を深めていく。

## 3 協働のプロセスの評価

## ①事業計画段階

		区	拠点	相互評価
1	自分たちが達成すべき大きな目的や理念についてよく話し合うことができましたか。	B	A	A
2	お互いの立場や組織の違いを話し合っよく理解することができましたか。	B	B	B
3	お互いの組織内部の取り決めについて、説明し合っよく理解することができましたか。	B	B	B
4	子育て家庭や子育て支援に関わる市民のニーズを把握して共有するとともに、この事業の目標と実施方法を話し合っ決めることができましたか。	B	A	B
5	目指す拠点の姿に近づくためにそれぞれが何をできるかを考え、話し合っ役割分担を決めることができましたか。	B	B	B
6	この事業の実施目的・目標や事業計画について、ホームページや通信等を使って市民に発信することができましたか。	B	A	B

## ②事業実施段階

		区	拠点	相互評価
1	率直な意見交換のもとに、お互い対等な立場で事業をすすめることができましたか。	B	B	B
2	お互いの強みや得意分野を、どう生かし合えるかを考え、提案しながら取り組むことができましたか。	A	B	B
3	相手に任せっきりにせず、お互いが役割を自覚して積極的に取り組むことができましたか。	B	A	B
4	事業の進捗に応じて、目標、ニーズ、対象、実施方法などをふりかえり、修正しながら取り組むことができましたか。	A	A	A
5	必要に応じ、関連する他の部署や団体などを巻き込みながら事業をすすめることができましたか。	B	A	B
6	事業終了後の見直しについて、話し合っ取り組むことができましたか。	C	B	B
7	事業の進捗状況を、ホームページや会報等を使って市民に発信することができましたか。	B	B	B

## ③事業の振り返り段階

		区	拠点	相互評価
1	協働することで、単独でおこなうのに比べてどのような効果が得られたか、話し合っ共有できましたか。	B	B	B
2	子育て家庭や子育て支援に関わる市民が満足を得られたかどうかについて、アンケート調査や話し合いによって確認することができましたか。	B	C	B
3	これまでの取組経過を振り返って、お互いの考えに相違点がなかったかについて話し合い、確認する事ができましたか。	B	B	B

取組経過について振り返り、協働に必要な取組が出来ていたかを評価します。

## 評価基準

A よくできた B できた C あまりできなかった D まったくできなかった